



TITLE:

京大広報 No. 361

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 361. 京大広報 1988, 361: 557-562

ISSUE DATE:

1988-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209318>

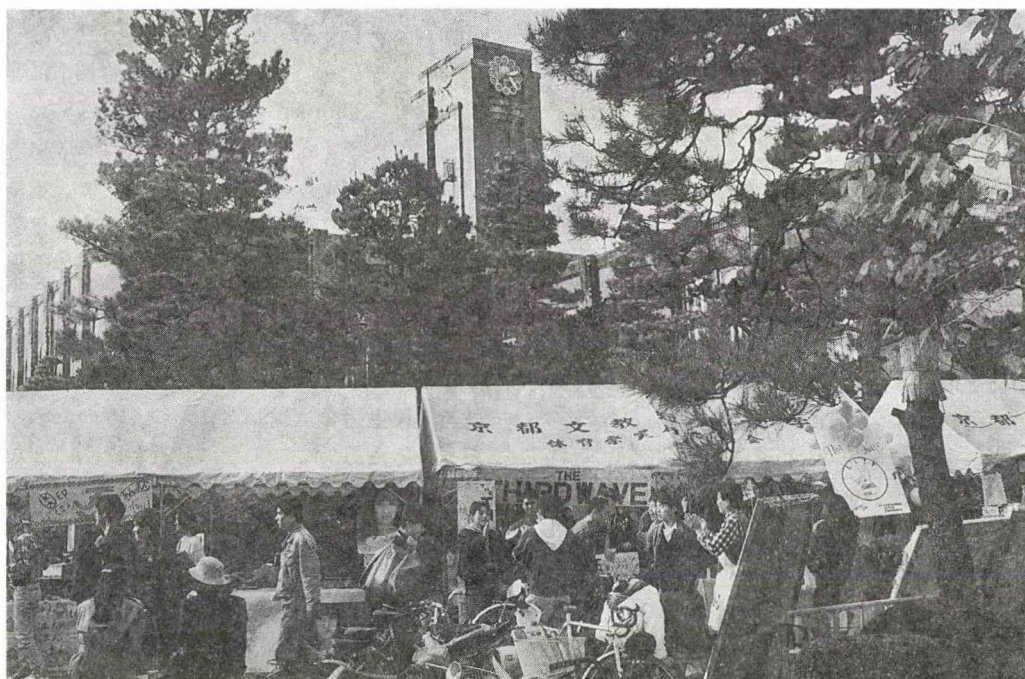
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 361

京都大学広報委員会



11月祭で賑わう本部キャンパス（11月22日）

## 目次

名誉教授称号授与式..... 558

昭和63年度京都大学市民講座「みち」

講演要旨 II ..... 558

<紹介>

農学部・演習林 その4（和歌山）..... 559

<随想>

ある経験—多人数の明と暗—

名誉教授 岡本 一..... 561

白馬山の家 of 冬季開催..... 562

## ＜大学の動き＞

## 名誉教授称号授与式

11月29日（火）午前10時30分から、総長室において、人文科学研究所長の出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、林屋辰三郎元教授（人文科学研究所）に称号が授与された。

昭和63年度京都大学市民講座「みち」

講演要旨Ⅱ

## 人と車の共存

## —コミュニティ道路をつくる—

工学部教授 天 野 光 三

都市交通の基本的な対策の考え方は、公共交通、自家用自動車、歩行者の三つに大別される。この三者が都市の限られた道路面を共有しており、そのうちどれかを優先すると、他はそれだけしわ寄せを受けて不便にならざるを得ない。この三者のバランスをどうするかについて、ヨーロッパ諸都市の考え方は、道路面利用効率のよい公共交通と、市民生活の基本である歩行者優先の方針が鮮明である。

その歩行者優先の方法には二つあって、まず第一は歩車分離である。歩道を作ったり、歩行者専用道（緑道）や、歩行者天国をつくる。駅前広場をダブルデッキに立体化する方法もある。とくにヨーロッパでは、ほとんどすべての都市に都心の幹線道路から自動車を排除したショッピングモールがあり、都市広場があ

る。

第二の方法は歩行者と沿道環境を優先し、注意深い車の運転を強制するとともに、その地区に用のない車が進入して来ないようにする方法である。わが国では「コミュニティ道路」といわれている。

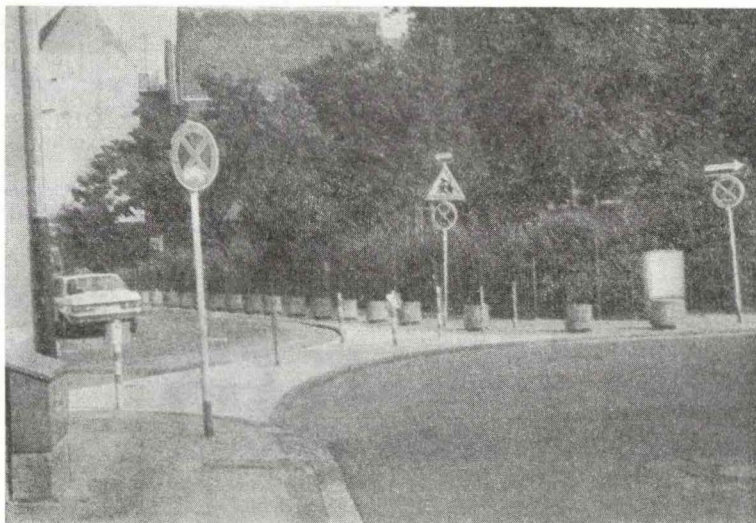
この「コミュニティ道路」の端緒は1972年にデルフトではじまり、まずオランダ全国の都市に拡がり、そして西ドイツ、英国をはじめ、ヨーロッパの諸都市にまたたく間に拡がっていった。

わが国ではじめて実施されたのは1980年であり、大阪市阿倍野区の既成市街地と、仙台近郊のニュータウンであった。その最初の試みは大きな反響をよび、その後たちまち全国諸都市に及び、現在すでに300か所を数えるに至っている。

この「コミュニティ道路」のヨーロッパとわが国における基本理念をのべる。ついで、実施と普及の歴史をふり返るとともに、物理的に自動車の減速を強制する路面の計画と設計の具体的な事例を、多数のスライドによって紹介した。

つい近年まで、道路は自動車をいかに円滑に走らせるかを主眼として機能中心で計画されてきたが、市民生活を重視したまちづくりのための「みち」の考え方がこのように身近かなものとなりつつある。

（10月29日）



交差点の直進を阻む「斜め遮断」（ケルン市の例）



## 〈紹介〉

## 農学部・演習林 その4 (和歌山)

和歌山演習林は、「学術研究及び実地演習の目的を以て林業及び附帯事業を経営する」ため、1926年（大正15年）1月に和歌山県有田郡八幡村（現・清水町）の海瀬定一氏所有の山林564.49ha（第1～6林班）に地上権を設定して開設された。その後、1942年（昭和17年）7月、演習林隣接の同氏所有の山林286.21ha（第7～11林班）に地上権が追加設定され現在に至っている。

演習林は、有田川の支流の湯川川の水源地の海拔500～1,200mに位置し、奈良県吉野郡に接している。地形は急峻で、各所に岩石地、断崖がみられ、日高郡との境界をなしている南側の稜線には、演習林内の最高峰（1,201m）があり、北流する各谷は、多くの滝をつくって湯川川に注いでいる。なかでも、第2林班の銚子の滝、第4林班の下り滝は約50mの落差がみられ、写真愛好家の格好の被写体となっている。地質は中生層に属し、土壌は一部浅いところもあるが、全般に深く、礫質で有機質に富み、比較的肥えている。年平均気温は13.9℃で、最低気温が-10℃より低く

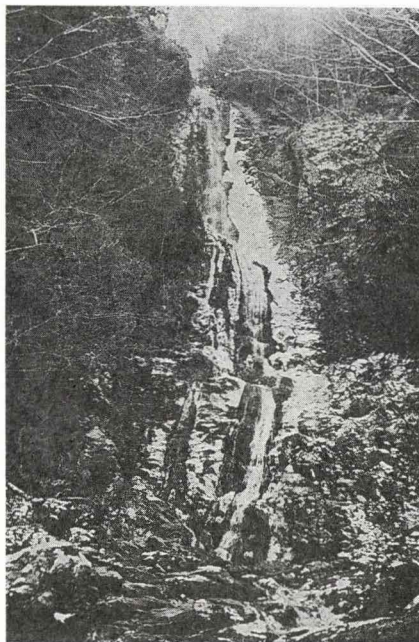


4・6 林班と湯川川

なることは珍しく、積雪も事務所附近（海拔500m）で30cmをこえることは稀である。演習林全域が、1976年（昭和51年）より鳥獣保護区に指定され、1988年（昭和63年）中には水源涵養保安林に指定される予定である。また、奈良県境を通る高野・竜神スカイラインより演習林を展望することができるが、スカイライン沿いの第8～9林班の上部は高野竜神国定公園の第2種施業制限林であり、第7～11林班の全域は第3種施業制限林である。

天然林は、モミ、ツガを含むミズナラ、ブナ、クリ、ミズメ、シデ類、カエデ類、ヒメジャラなどが優占している落葉広葉樹林と、モミ、ツガを主林木に落葉広葉樹を混交した針広混交林とからなり、前者は斜面上部に、後者は斜面中～下部にみられる。さらに、尾根筋には、局部的に、アカマツ、ゴヨウマツ、コウヤマキがみられ、カヤもわずかに散在している。

演習林設定以前の森林の取り扱いについては詳しい記録はないが、明治初期の頃から針葉樹が幾回にも亘って伐採搬出され、演習林設定直前にはほぼ全域からモミ、ツガ、カヤ、コウヤマキ、ヒノキ、スギ、ミズメ、ヤマザクラ、ミズナラ、コ

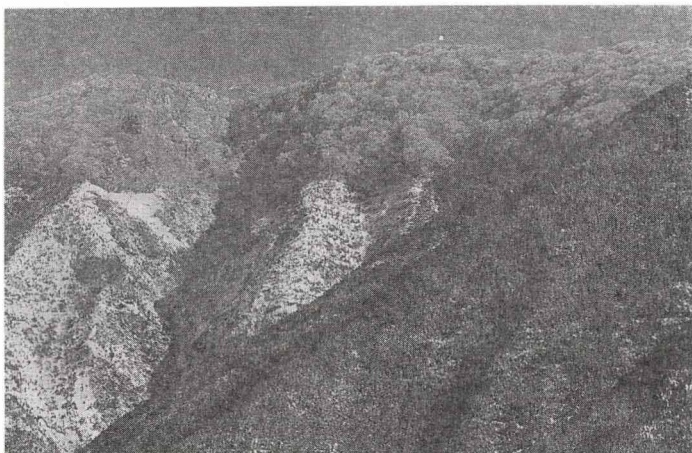


約50mの落差がある下り滝（4林班）



ナラ、クリ等が大量に伐採搬出されたといわれている。したがって、演習林設定当時には、中径木や小径木の多い蓄積の低い森林で、高海拔地に当時では利用価値が乏しく搬出困難であったブナの大径木が散在するのみであったと記されている。

和歌山演習林では、開設以来、一貫してスギ、ヒノキ人工林の造成を主眼とした育林技術研究がすすめられてきた。演習林設定当初は、天然林で、尾根筋などモミ、ツガが生立しているところでは、有用でない広葉樹を伐採してモミ、ツガの生育をうながし、沢筋など広葉樹の疎らなところに、スギ、ヒノキが樹下植栽された。戦後はそれまでの樹下植栽にかかわって、広葉樹を巻枯し（樹皮をはいで枯す）してスギ、ヒノキが植えられた。この造林地は、比較的手入れもよくなされ、まとまった林分（樹木の集団）に育っている。天然林の伐採利用がはじめ



ブナ保存林と若令造林地（8林班）

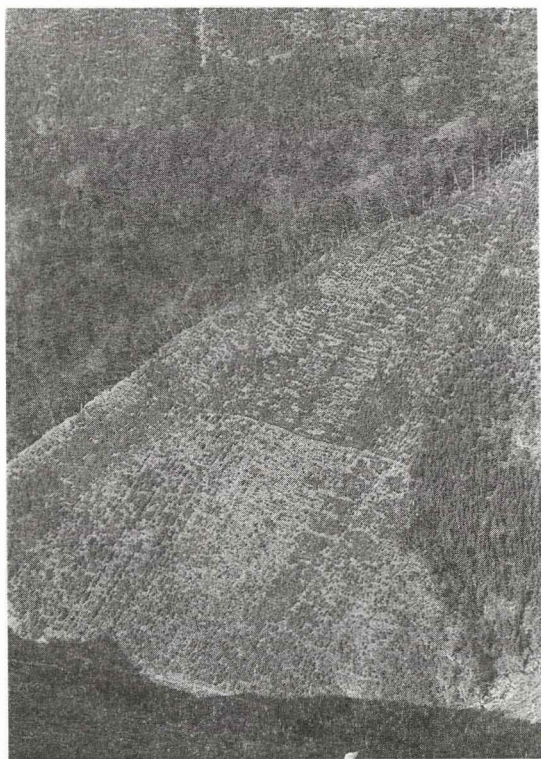
られたのは、1956年（昭和31年）以後で、その跡地は、スギ、ヒノキに改植され、多くのスギ品種別生育比較試験林や生育調査試験林等が造成されている。現在、このようにして造成されたスギ、ヒノキ人工林は約445haとなっている。

また、演習林設定以後は全く人手の加わっていない天然林や前述の保育伐の加えられたモミ、ツガ林などは、演習林設定後60数年を経て、優良な林分に生育し、この地方に残された最後の天然林として多くの人々の関心を集めている。

演習林は主として農学部林学科に関する研究と実習に利用されているが、最近森林特に天然林に関する関心が高まり、学内外の多方面の研究や実習、見学などに利用されるようになった。本演習林では教職員10名が試験研究と管理運営にあっている。現在の主な試験研究は、天然林の動態に関する研究とスギ、ヒノキ人工林の施業技術の体系化、及び主として天然林を対象とした非皆伐施業（利用対象木だけを抜き切る）による良質大径材の生産技術の確立で、その内容は多岐にわたっている。また、実習や研修、見学のための樹木園の設定、材鑑などの資料の収集、展示もおこなっている。

なお、入林の手続きや情報、資料は演習林本部計画掛、または和歌山演習林（和歌山県有田郡清水町上湯川近井0737-25-1183）に照会されたい。

（農学部附属演習林）



学術参考保存林とスギ品種別  
生育比較試験林（9林班）



## 白馬山の家の冬季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている白馬山の家を、今冬も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の<sup>つがいけ</sup>梅池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、積雪量も多く、雪質の良さとともにスキーには絶好の条件を備えており、初心者向きから上級者向きまで各種のゲレンデがあります。

なお、建物は、山小屋風の木造地上2階、地下1階建て、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室（ベッドで42名収容）、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名 称 京都大学<sup>はくほ</sup>白馬山の家

2. 所在地 長野県北安曇郡<sup>あづみ おたり</sup>小谷村大字千<sup>ち</sup>国字柳久保乙869の2

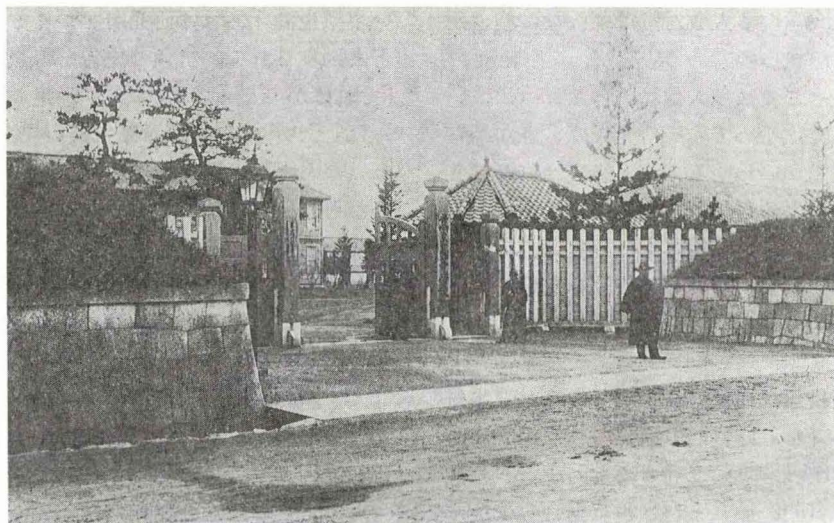
(交通機関)

J R大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親<sup>おや</sup>の原<sup>はら</sup>」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 12月20日(火)～1月10日(火)  
ならびに2月20日(月)～4月10日(月)

4. 所要経費 1人1泊 使用料80円、暖房料50円、ほかに食費等実費程度

5. 申し込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話学内2574）に照会してください。（学生部）



明治30年代後半の第三高等学校正門  
(現在の教養部正門)